

豫審判事ノ誤謬ヲ發見シタルニ過キス然ルニ豫審判事ノ誤謬ハ確定シタル決定ノ効力ヲ破リ得ルモノニ非サルヲ以テ之ヲ理由トシテ再ヒ公訴ヲ起スヲ得サルナリ故ニ此場合ニ於テハ被告人ハ前ニアリタル免訴ノ決定ヲ以テ抗辯ヲ爲シ得ルモノトス〔正義解一五八丁以下〕又タ曰ク犯罪ノ證憑十分ナラサルニ因リ免訴ノ言渡ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ單ニ事實上ノ理由ヲ付スルニ止マリ法律上ノ理由ヲ付スルニ由ナシ……事實上ノ理由ト法律上ノ理由トヲ付シテ爲シタル決定ト事實上ノ理由ノミヲ付シテ爲シタル決定トノ間ニハ著大ナル差アリ即チ法律上ノ理由ヲ付シタル決定ナルトハ之ニ對シ上訴ナキカ又ハ上訴アルモ其効ヲ生セサルニ於テハ確定ノ効ヲ生シ復タ之ヲ動かストキ得ス之ニ反シテ事實上ノ理由ノミヲ付シテ爲シタル決定ナルトハ常ニ假ノ効力ヲ生スルニ過キス即チ新ナル證憑ノ出ルトハ更ニ其事件ニ付キ起訴スルヲ得ルナリ〕〔義解五一四丁以下〕非ナリ前ニ一

此ノ議論ノ當否

言シタルカ如ク豫審決定ハ孰レモ證憑限ノモノナレハ免訴ノ理由如何ニ拘ラス新證憑アルトキハ更ニ公訴ヲ起スヲ得サルヘカラス氏カ證據不十分ナルトキハ法律的理由ヲ付スルコトナシト曰ヘルハ誤レリ此ノ場合ト雖モ亦タ法律的理由ナキニアラス〔九七八丁〕假ニ氏ノ説ニ從ヒ法律的理由ヲ付スルハ餘ノ原由ニ基ク免訴ノ言渡ニ限レリトシ法律的理由確定シタルトキハ之レヲ動かサテ得ストスルモ其ノ本タル事實的理由ヲ動かサズニ足ルヘキ新證憑アルトキハ更ニ訴ヲ起サテ得サルノ理ナシ寺尾氏曰ク新證ノ發見ニ依リ再ヒ審理スルヲ得ルハ如何ナル理由ヲ以テ免訴シタル場合ナルヤ或ハ其始メ證憑不十分ノ故ヲ以テ免訴シタル場合ニアルカ如クナルモ其實決シテ然ル者ニ非ス苟モ免訴ノ言渡ヲ爲シタル場合ナル以上ハ其免訴ハ証憑不十分ナル理由ニヨルト其他ノ理由ナルトテ問フテ要セサルナリ……何カ故ニ此ノ如ク敢テ其免訴ノ理由如何ヲ問ハサルヤ新ナル證憑出ツ

ルトキハ事件ノ性質ヲ變更スルモノナリ苟モ事件ノ性質ヲ變更ス可  
 キモノナレハ其旨ヲ免訴シタル理由ノ何タルニ拘ハラズ皆再訴ヲ許  
 ス可キナリ只ク新ナル證憑出ツルモ之カ爲メ事件ノ性質ヲ變更スル  
 コトヲ得サル場合ニ於テハ再訴ヲ爲スコトヲ得スシテ向キノ免訴ノ  
 言渡ハ茲ニ全ク確定ス可キモノトス〔講義一九五丁以下〕氏カ前段ニ  
 於テ免訴ノ理由何如ニ拘ラス新證憑アルトキハ再訴ヲ爲スヲ得ト説  
 ケルハ能ク其ノ當ヲ得タリト雖モ後段ニ至リ事件ノ性質ヲ變更スヘ  
 キ新證憑ヲ發見シタルトキニアラサレハ再訴ヲ許サスト論セルハ法  
 律ト道理ノ共ニ容レサル所ナリ本條ニ「……同一ノ事件ニ付キ再ヒ訴  
 ヲ受クルコトナカル可シ」トアリテ同一事件ニ付キ設ケタル規定ナレ  
 ハ其ノ事件ノ性質ヲ異ニスルヲ要セサルヤ法文上明カナリ且ツ確定  
 裁判ノ問題ハ二三例外ニ屬スルモノアレトモ大體ハ同一事件即チ性  
 質相同キ事件ニ關シテ生スルモノニシテ其ノ性質前後全ク異リ前判

ノ目的トスヘキモノニアラサル以上ハ新ナル證憑ヲ發見スルコトナ  
 キモ尙ホ之レニ對シテ公訴ヲ起スヲ得是レ余カ法律ト道理ノ共ニ容  
 レサル所ナリト曰ヒタル所以ナリ

豫審免訴ノ決定確定スルモ新證憑アルトキハ更ニ同一事件ニ付キ公  
 訴ヲ起スノ妨ト爲ラス然レトモ濫ニ公訴ヲ起スコトヲ許ストキハ被  
 告人ノ迷惑計ルヘカラサレハ檢事新證憑ヲ得ルモ直ニ公訴スルヲ得  
 ス先ツ其ノ證憑ヲ裁判所ニ差出サシメ裁判所其ノ起訴ヲ許スヘキヤ  
 否ヤヲ決定スヘシト定メタリ

佛國治罪法第二百四十七條ニ新證憑ノ何モノタルコトヲ定テ重罪取  
 調局ノ其ノ効力薄弱ナリトセシ證據ヲ確實ニシ又ハ新ニ事實發見上  
 必要ナルモノニシテ未ク同局ニ差出サ、ル證言、證書及ヒ調書ハ新證  
 ナリトセリ然レトモ新證憑ハ千熊万狀預メ法律ノ限定スヘキモノニ  
 アラサレハ我カ法律ハ專ラ之レヲ裁判所ノ判定ニ任シタリ從テ其ノ

再訴ノ効  
 アル新證  
 ニ制限ア  
 リヤ

證據タルト徴憑タルト事實參考ニ供スヘキ事物タルトニ拘ルコトナシ故ニ事實參考人ノ供述ト雖モ亦タ新證憑タルヲ得ルコトアリ(明治二十七年五月十八日大審院判決)

○本條ニ關シ左ノ説ヲ唱ル者アリ曰ク茲ニ謂エル新證憑トハ單ニ事實上ノ證憑ノミナラス亦タ法律上ノ證憑ヲモ包含スレハ豫審判事法律ノ見解ヲ誤テ免訴ノ言渡ヲ爲シタル後檢事其ノ見解ノ誤レル所以ヲ證明スルトキハ更ニ公訴ヲ起スヲ得ヘシト非ナリ法律上ノ證憑トハ文字新奇ニ亘ルノミナラス檢事其ノ當時豫審判事ノ見解ヲ正フスルヲ得サリシトキハ後日ニ至リ之レヲ奈何トモスルヲ得サルナリ

訴訟關係  
人本條ノ  
決定ニ對  
シテ上訴  
スルヲ得  
ルヤ  
大審院判

○訴訟關係人本條ノ決定ニ對シテ上訴スルヲ得ルヤ如何明治二十六年十二月十六日大審院判決ニ曰ク「新ナル證憑アリヤ否ヲ審案シ再起訴ヲ許スヘキヤ否ヲ決定スルハ裁判所ノ特權ニ屬シ法律ハ其決定ノ當否ニ付不服ヲ申立ルコトヲ許サス故ニ原院説明ノ如ク被告ハ公判

例

ニ至リ該決定ノ當否ニ關スル理由ヲ以テ公訴受理スヘカラサルノ申立ヲ爲スコトヲ得サルモノトスト法ニ明文ナケレハ此ノ種ノ決定ニ對シテ上訴ヲ許スヘカラスト雖モ其ノ上訴ヲ許サ、ルハ蓋シ此ノ決定タル原被兩造ノ間ニ存スル爭論ニ付キ下ス所ノ真正ナル裁判ニアラサルヲ以テノ故ナレハ豫審、公判ノ判事此ノ決定ニ拘束セラル、コトナシ新證憑ナシト認メタルトキハ免訴、無罪ノ言渡ヲ爲スヲ得ヘシ是レ恰モ親告ヲ要スル事件ニ付キ告訴アリタリトシテ公訴ヲ起シタルモ被告人何時ニテモ其ノ告訴ノ無効ナルコトヲ主張シテ其ノ公訴ヲ斥ルヲ得ルト其ノ理一ナリ大審院ニ於テハ明治二十七年十二月十三日尙ホ下ノ如ク判決セリ曰ク「刑事訴訟法第七十五條末項ニ依リ檢事カ差出シタル新證ハ再起訴ヲ許スヘキモノナルヤ否ヤヲ決定スルハ受訴裁判所ニ一任シタルモノナリ故ニ其裁判所ニ於テ新證憑ニ依リ起訴ヲ許シ爾後豫審ニ於テ相當ノ手續ヲ履行シタル以上ハ曩ニ

新證憑トセラレタル調書等ニ違法ノ点アルト否トテ問ハス其公訴ハ受理審判スヘキモノナリ……」ト新證憑ナリト認メラレタル調書等ニ違法ノ点アリテ無効ニ歸シタルトキハ必ス免訴ノ言渡ヲ爲サ、ルヘカラス新證憑アルカ爲メニ起リタル公訴ハ新證憑無効ニ歸シタルト同時ニ無効ニ歸スヘキハ當然ノ理ナリ若シ之レニ反セムカ豫審決定ノ效力ハ證憑限ト雖モ尙ホ之レナキニ至ラム此ノ如キハ明カニ本條ノ規定ニ反スルモノナリ

或問

○或問茲ニ某アリ郵便局事務見習中甲郵署ヨリ乙郵署ニ郵送スヘキ書留郵便物ヲ隱匿シ後之レヲ開キ在中ノ信書ヲ毀棄シタリ檢事本案ヲ目シテ竊盜郵便開封官文書毀棄ノ三罪アリトシテ豫審ヲ求メタルニ豫審判事取調ノ末竊盜ト郵便開封トハ罪ト爲ラストシテ免訴シ單ニ官文書毀棄ノ罪アリト認メ重罪公判ニ付スルノ決定ヲ爲シタルトキハ公判判事此ノ免訴ノ決定ニ拘束セラレヘキヤ如何法曹會ニ於テ

法曹會決

議

ハ明治二十五年十二月七日及ヒ明治二十七年一月十日下ノ如ク議決セリ曰ク一事件ニシテ一罪ニ止マルモノト數罪ト爲ルモノトアリ又豫審ハ證憑ヲ蒐集シテ公判ニ付ス可キヤ否ヤテ決定スルニ止マリ公判ノ如ク罪ノ有無ヲ判決ス可キモノニ非サルナリ本問ヲ決スルニハ宜シク先ツ此二點ヲ明ニセサル可カラズ此二點ヲ明ニセサルカ故ニ乃チ本問ノ疑議ヲ生シタルモノナル可シ然リ而シテ刑事訴訟法第百七十五條ニ豫審ニ於テ被告人免訴ノ言渡ヲ受ケ其決定確定シタルハ罪名ノ變更アルモ同一ノ事件ニ付キ再ヒ訴ヲ受クルコトナカル可シトアル共同一ノ事件トハ一事件ニシテ一罪ニ止マルモノト數罪ト爲ルモノトテ問ハス即チ事件全體ヲ指シタル者ニシテ決シテ一事件中ノ一罪若クハ二罪ヲ指シタルモノニ非サルナリ是以テ例ヘハ本問ノ如ク檢事ニ於テ一事件ニシテ三罪ニ觸ル、モノト認メ起訴シタルニ豫審判事ニ於テ右一事件中ノ二所爲ハ罪トナラサルモノト認ムル

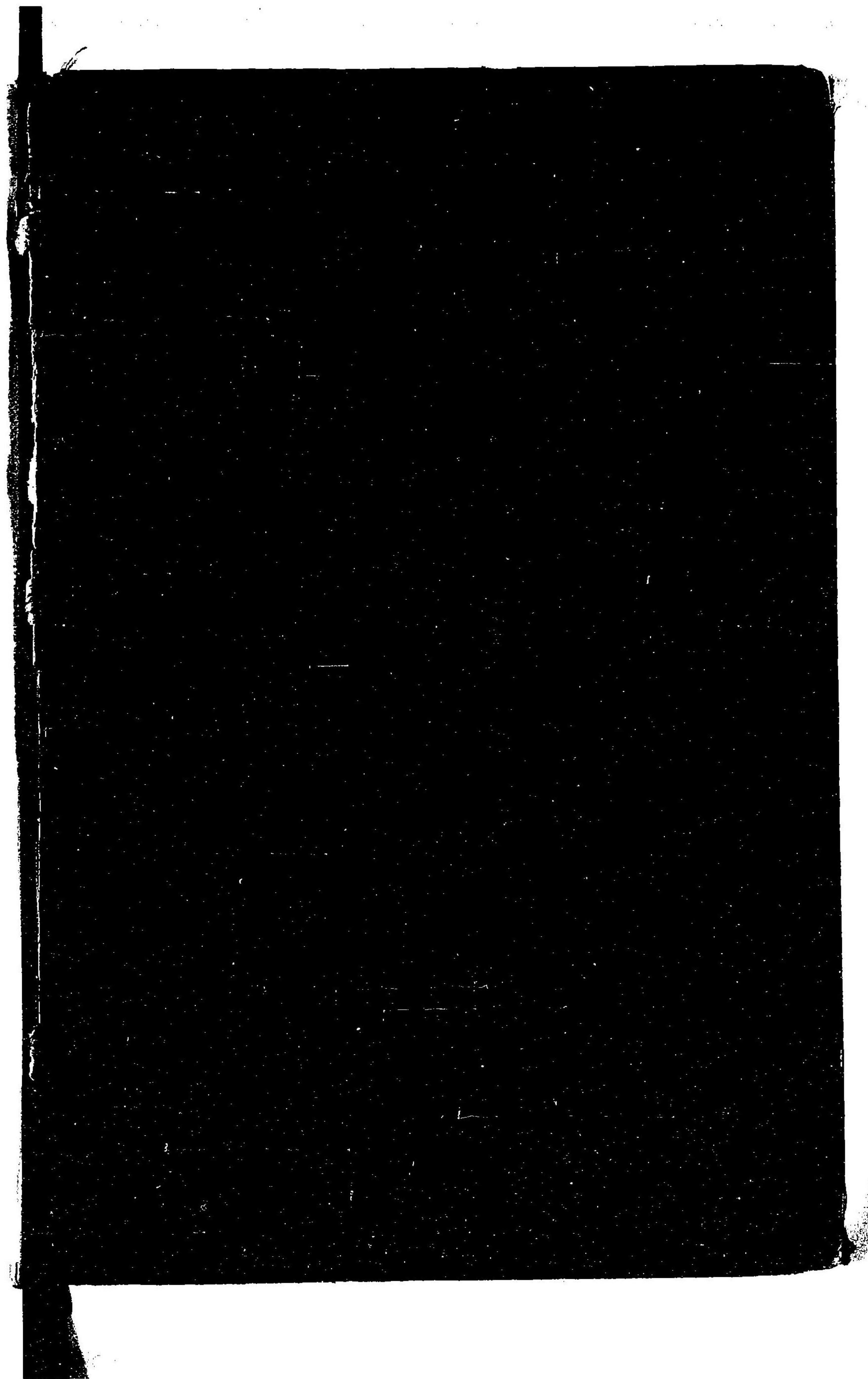
モ他ノ所爲ニ付キ罪トナル可キモノト認メタル上ハ其事件ヲ公判ニ付スルノ決定ヲ爲サ、ル可カラズ其レ然リ豫審判事ハ被告事件ヲ公判ニ付ス可キヤ否ヤヲ決定スルニ止リ罪ノ有無ヲ判決ス可キモノニアラサルカ故ニ苟モ一事件中ノ一所爲ニシテ罪トナル可キモノアリト認メタル上ハ乃チ其事件ヲ公判ニ付スルノ決定ヲ爲スヲ以テ足レリトス決シテ其一事件中ノ罪トナラサルモノト認メタル他ノ二所爲ニ對シテ一々免訴ノ言渡ヲ爲ス可キモノニアラサルナリ若シ夫レ罪トナラサルモノト認メタル他ノ二所爲ニ對シ一々免訴ノ言渡ヲ爲ス可キモノトセハ則チ罪ノ有無ヲ判決スルモノニシテ公判判事ト其職務毫モ異ナルコトナキニ至ル可シ之ヲ要スルニ豫審判事ハ被告事件ノ全體ニ付キ公判ニ付ス可キモノナルヤ否ヤヲ決定スルニ止リ其事件中ノ各所爲ニ付キ一々其罪トナル可キモノナルヤ否ヤヲ判決ス可キモノニアラサルナリ然ラハ則本問ノ場合ニ於テ豫審判事カ一事件

中ノ二所爲即チ竊盜及郵便開封ノ點ニ對シ一々免訴ノ言渡ヲ爲シタルハ誤謬ニシテ他ノ一所爲即チ官文書毀棄ノ點ハ罪ト爲ル可キモノト認メ已ニ此點ヲ以テ公判ニ付スルノ決定ヲ爲シタル上ハ即チ其事件全體ヲ公判ニ付シタルモノナルニ付キ公判判事ハ官文書毀棄ノ一罪ト判決スルモ固ヨリ可ナリ竊盜ノ一罪ト判決スルモ亦可ナリ竊盜及郵便開封ノ二罪ト判決スルモ是亦可ナリ決シテ豫審判事ノ言渡シタル免訴ノ決定ニ拘束セラル可キモノニアラサルナリ」ト法曹記事第十四號第二十六號非ナリ一所爲觀察ノ點ヲ異ニスルニ隨テ其ノ罪名ヲ異ニスヘキ場合ニ於テ豫審判事其ノ取ラサル罪名ニ付キ免訴ノ言渡ヲ爲スハ不法ナリト雖モ其所爲異ルトキハ各別ニ決定ヲ爲サ、ルヘカラス本問題ニ於テ郵便物ヲ隱匿シタルコト之レヲ開封シタルコト在中ノ信書ヲ毀棄シタルコトハ孰レモ獨立シテ訴訟ノ目的タルヘキ一所爲ヲ成スモノナリ故ニ豫審判事隱匿開封ノ二所爲ニ付キ免訴

此ノ決議ノ當否

ノ言渡ヲ爲シタルトキハ公判裁判所必ス之レニ拘束セラレサルヘカ  
ラス而テ其ノ決定ノ事實點ニ係ルト法律點ニ係ルトノ間差異ノ存ス  
ヘキナシ豫審判事モ亦テ法律點ヲ判斷スルノ職權アルコトハ第六  
十五條ニ被告事件罪ト爲ラサルトキヲ以テ豫審免訴ノ原由トシタル  
ニ由テ明カナラム今試ニ本問題ノ例ヲ更メ檢事郵便物ヲ隱匿シタル  
事件ヲ竊盜トシテ豫審ヲ求メ豫審判事罪ト爲ルヘキ所爲ニアラスト  
シテ免訴ノ決定ヲ爲シタルトキハ如何此ノ決定確定シタルトキハ更  
ニ公訴ヲ起スヲ得サルニアラスヤ然ラハ則チ本問題ノ場合ニ於テモ  
公判裁判所ハ其ノ決定ニ拘束セラレサルヘカラス之レヲ要スルニ公  
判裁判所ハ豫審判事ノ付シタル罪名ニ拘束セラル、コトナキモ法律  
的理由ニ基ク免訴ノ決定ニハ必ス拘束セラレサルヘカラス

68
365





036697-001-0

68-365

刑事訴訟法釈義

堀田 正忠/著

上

[M29?]

BBS-0121

